

情報通信審議会 情報通信技術分科会 電波利用環境委員会（第 61 回）

議事要旨

1 日時：令和 7 年 1 月 10 日（金）10:00～11:50

2 場所：Web 会議開催 (Cisco Webex)

3 出席者（敬称略）

【構成員】平田主査、石上主査代理、長谷山委員、増田委員、石山専門委員、大西専門委員、河瀬専門委員、小島原専門委員、杉本専門委員、曾根専門委員、田島専門委員、堀専門委員、松永専門委員、山口専門委員、山崎専門委員、山下専門委員、和氣専門委員

【関係者】雨宮氏 (VCCI 協会)、尾崎氏 (富士電機)、久保田氏 (TELEC)、塚原氏 (JQA)、松本氏 (NICT)

【事務局】総務省：武藤電波環境課長、今泉電波監視官、郷藤電磁障害係長 (記)

4 議事

（1） CISPR 会議審議結果について

資料 61-1 及び資料 61-2 に基づき、各作業班主任より CISPR 各小委員会の審議結果について説明が行われた後、石上主査代理より CISPR 全体総会の審議結果について説明が行われた。

情報通信技術分科会への報告にあたり、本質に関わりのない細かい字句修正等については主査一任となった。

質疑応答は次のとおり。

田島専門委員：D 小委員会の表において、QP 許容値 + α となっているが、他の通信への影響評価について今後議論になる可能性があるのか、それともこれまでの実績でこの値となったのか。

塚原専門委員：グループ 1 は従来の内燃機関のイグニッションノイズによるもので、尖頭値で測定した結果が無線通信への影響と相関がある。実績があるもので、変更を求める意見はない。グループ 2 はハイブリッド車等が該当し、パワエレ機器からの妨害波が主となるが、従来の車と同じような電子電装機器が搭載されているため様々なノイズが混在することになる。多くの車両を測定した結果 +13dB の相関係数が導き出されたが、今後第 8 版に向けて議論になると思われる。

和氣専門委員：A 小委員会の 43.5 GHz への拡張について日本提案とのことだが、43.5 GHz を提案した理由と、ひとまず 40 GHz になったことによる問題点はないのか教えていただきたい。

石上専門委員：ITU-R における 5G の周波数割当が 43.5 GHz であったため、2 年前 CISPR における干渉検討周波数を 40 GHz まで拡張する方針が示された際に日本から 43.5 GHz まで拡張することを提案した。現在の方針としては、まずは 40 GHz まで拡

張し、その後 43.5 GHz に拡張できるかどうかをアドホックにおいて検討することになっている。現在、他の小委員会では、まずは 6 GHz まで拡張する対応や、18 GHz となっているのをどうするか検討している状況なので、問題になることはないかと思う。

山崎専門委員：B 小委員会の WG2 において、Q 文書が出されたとのことだが、正式にメンテナンス活動を開始することが決まったのか。

久保田関係者：まだ正式な文書は回付されていないので、もうしばらくお待ちいただければと思う。

尾崎関係者：補足すると、Q 文書が発行されて 11 月に投票が締め切りとなっていた。投票結果としては、TR 18-1 については全 NC が賛成し、TR 18-2 は日本だけが反対、4 か国が棄権で、残りが賛成というもので、両方ともメンテナンスを行うことに賛成するものであった。RQ 文書を出すようコンビーナを急かしているが、まだ出ていない。最終的には春以降開催予定の WG2 にて議論が開始される予定である。

(2) その他

事務局より、電波利用環境委員会報告資料(案) (CISPR 会議審議結果)については、本日の検討結果を踏まえて 2 月開催予定の情報通信審議会 情報通信技術分科会で報告予定であると連絡があった。

次回会合については、詳細が決まり次第、事務局よりメールで通知する旨連絡があった。

以上